

# 2019年度 第2四半期(上半期)報告 説明資料

2019年11月22日  
明治安田生命保険相互会社

I. 2019年度第2四半期（上半期）報告のポイント	P 2
II. 明治安田生命グループの業績	
1. グループ保険料	P 3
2. グループ基礎利益	P 4
3. 連結財務諸表、連結ソルベンシー・マージン比率、ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー（EEV）	P 5
III. 明治安田生命単体の業績	
1. 保険料等収入・年換算保険料（個人保険・個人年金保険）	P 6
2. 保有契約高（団体保険・団体年金保険）	P 7
3. 基礎利益	P 8
4. 資産運用収支	P 9
5. 健全性指標・企業価値（EEV）	P 10
6. 含み損益、国内株式含み損益ゼロ水準	P 11
7. 契約クオリティ（解約・失効・減額率、総合継続率）	P 12
8. 損益計算書・貸借対照表	P 13
IV. スタンコープ社の業績【参考】	
1. スタンコープ社の保険料等収入、基礎利益相当額、当期純利益	P 14
2. 損益計算書・貸借対照表（スタンコープ社）	P 15
V. 業績見通し	P 16
VI. トピックス	
1. 「アフターフォロー」	P 17
2. 「みんなの健活プロジェクト」	P 18
3. 「Jリーグ・地域社会貢献」	P 19

## I. 2019年度第2四半期（上半期）報告のポイント

**1 グループ・単体ともに「減収減益」、スタンコープ社は3年連続で「増収増益」**

- ・ 保険料等収入は、外貨建て一時払保険の販売減少を主因とした明治安田生命単体の減収により、グループで1兆4,584億円と前年同期比6.5%の減収
- ・ 基礎利益は、団体保険の保険料率引き下げ等の影響により単体で減益となったことに伴い、グループで3,123億円と前年同期比1.4%の減益となったが、グループでは計画を上回る水準を確保しており、**引き続き高い収益性を維持**
- ・ スタンコープ社は、主力の団体保険事業が順調に推移したことにより、保険料等収入は1,451億円と前年同期比2.3%の増収。また、基礎利益は団体保険事業の給付率低下による利益改善を主因に、244億円と前年同期比34.7%の大幅増益となり、**2016年3月の当社買収以降、3年連続で「増収増益」を達成**

**2 財務基盤の強化等を通じて、高い健全性を維持**

- ・ 2019年度上半期では内部留保の積み増しや国内劣後債の発行等により、**ソルベンシー・マージン比率は第2四半期では5年ぶりに連結・単体ともに1,000%超え**。連結では1,082.4%と前年度末差42.3ポイント増加となるなど、引き続き高い健全性を維持

**3 2019年度通期では、グループ・単体ともに保険料等収入・基礎利益の業績見通しを「横ばい」に修正**

- ・ 保険料等収入は、外貨建て一時払保険の販売減少を主因に計画を下回って推移していることから「横ばい」に下方修正
- ・ 基礎利益は、外債投信からの分配金増加やスタンコープ社の業績好調等により、2018年度決算報告時の「減益」から「横ばい」に上方修正。グループ・単体ともに**過去最高益となった2018年度と同水準を維持**する見通し

## II. 明治安田生命グループの業績

### 1. グループ保険料

#### ■ グループ保険料

(単位:億円)

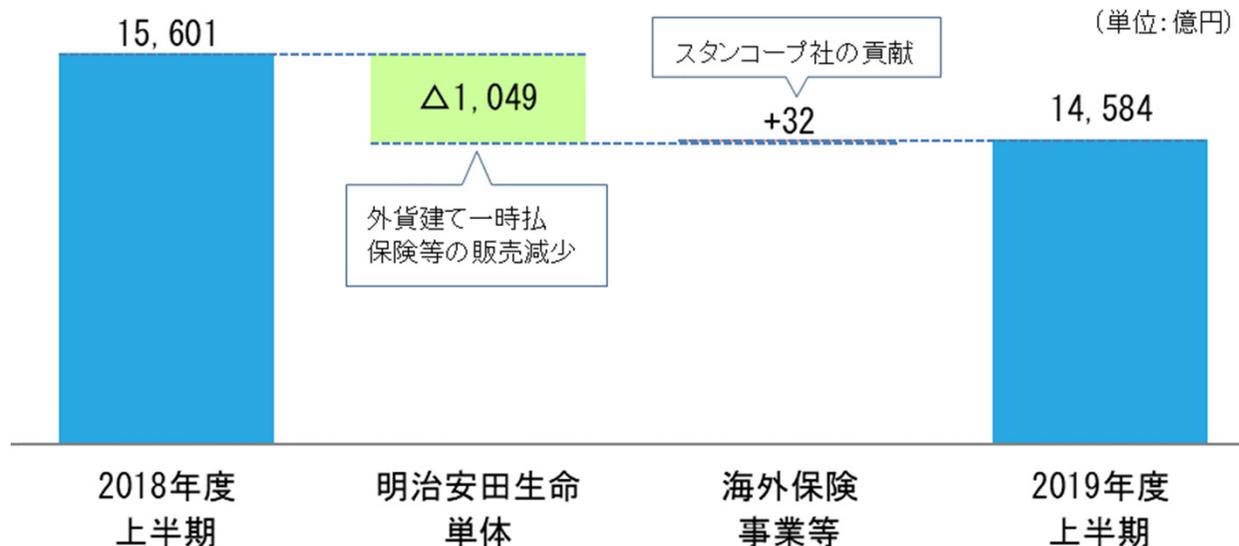
	2019年度 上半期			2018年度 上半期
	前年同期比	占率		
グループ保険料 (注1)	14,584	△6.5%	100.0%	15,601
明治安田生命単体	13,008	△7.5%	89.2%	14,057
海外保険事業等 (注2)	1,576	+2.1%	10.8%	1,543
うちスタンコープ社	1,451	+2.3%	9.9%	1,418

(注1) グループ保険料は連結損益計算書上の保険料等収入

(注2) 海外保険事業等は、国内生命保険事業以外の合算。なお、海外の子会社等は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、上半期グループ業績への反映期間は1月から6月までの6ヵ月

#### ■ グループ保険料の主な増減要因

(単位:億円)



○グループ保険料は、1兆4,584億円と前年同期比6.5%減収

・明治安田生命単体において、外貨建て一時払保険の販売減少を主因に減収

○グループ保険料のうち、海外保険事業等は1,576億円と前年同期比2.1%増収

・スタンコープ社は、主力の団体保険事業が順調に推移したことにより前年同期比2.3%増収

・グループ保険料に占める海外保険事業等の割合は10.8%

## II. 明治安田生命グループの業績

### 2. グループ基礎利益

#### ■ グループ基礎利益

(単位:億円)

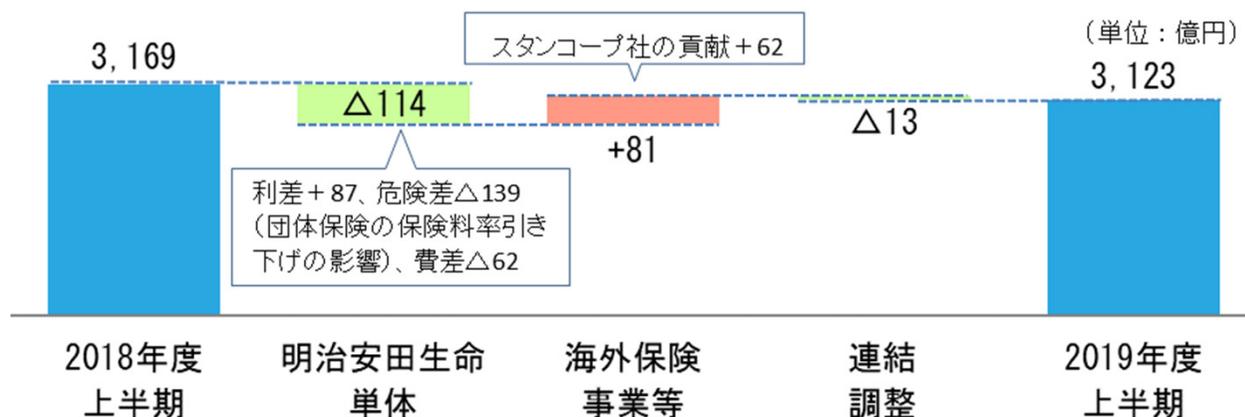
	2019年度 上半期			2018年度 上半期
	前年同期比	占率		
グループ基礎利益 (注1)	3,123	△1.4%	100.0%	3,169
うち明治安田生命単体	2,854	△3.9%	91.4%	2,969
うち海外保険事業等 (注2)	337	+32.0%	10.8%	255
うちスタンコープ社 (注3)	244	+34.7%	7.8%	181

(注1) グループ基礎利益は、明治安田生命の基礎利益に連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち明治安田生命の持分相当額を合算し、明治安田生命グループ内の内部取引の一部を相殺した数値

(注2) 海外保険事業等は、国内生命保険事業以外の合算。なお、海外の子会社等は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、上半期グループ業績への反映期間は1月から6月までの6ヵ月

(注3) スタンコープ社について、財務会計の管理方法変更に伴い、2019年度より基礎利益相当額を買収会計適用後の会計ベースでの算出に変更。なお、変更後基準で算出した場合の2018年度上半期実績は193億円(グループ基礎利益合計は3,181億円)

#### ■ グループ基礎利益の主な増減要因



○グループ基礎利益は、3,123億円と前年同期比1.4%減益

・明治安田生命単体において、団体保険の保険料率引き下げ等の影響により減益

○グループ基礎利益のうち、海外保険事業等は337億円と前年同期比32.0%増益

・スタンコープ社は、団体保険事業の給付率の低下による利益改善を主因として、前年同期比34.7%増益

・グループ基礎利益に占める海外保険事業等の割合は10.8%

## II. 明治安田生命グループの業績

### 3. 連結財務諸表、連結ソルベンシー・マージン比率、ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (EEV)

#### ■ 連結損益計算書 (要約)

(単位:億円)

	2019年度		2018年度 上半期
	上半期	前年同期比	
経常収益 (A)	20,351	△5.1%	21,453
うち保険料等収入	14,584	△6.5%	15,601
うち資産運用収益	5,183	△1.4%	5,256
経常費用 (B)	18,766	△3.1%	19,367
うち保険金等支払金	12,267	+2.1%	12,014
うち責任準備金等繰入額	1,677	△42.5%	2,916
うち資産運用費用	1,696	+36.5%	1,243
うち事業費	2,329	△0.1%	2,331
経常利益 (A-B)	1,584	△24.1%	2,086
特別損益	△146	—	△826
法人税等合計	154	+13.8%	135
非支配株主に帰属する中間純剰余	0	△96.9%	13
親会社に帰属する中間純剰余	1,283	+15.5%	1,110

#### ■ 連結ソルベンシー・マージン比率、 ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー(EEV)

(単位:億円)

	2019年度		2018年度末
	上半期末	前年度末差	
連結ソルベンシー・マージン比率 <sup>(注1)</sup>	1,082.4%	+42.3ポイント	1,040.1%
グループEEV <sup>(注2)</sup> (注3)	45,637	△1,574	47,212

(注1) 「ソルベンシー・マージン比率」とは、大災害や株価の暴落等、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つ。この数値が200%を下回った場合、監督当局による業務改善命令等の対象

(注2) 「ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー(EEV)」とは、生命保険会社の企業価値を表わす指標の一つであり、保有契約から見込まれる将来利益の現在の価値や、保有資産の含み損益等で構成

(注3) 2019年度上半期末EEVの算出から、保険監督者国際機構 (IAIS) が検討を進める国際資本基準 (ICS) をふまえた終局金利を用いる手法に変更。2018年度末EEVについても2019年度上半期末と同様の手法により再評価した値を表示。なお、従来の手法により算出した2018年度末EEVは4兆4,197億円

#### ■ 連結貸借対照表 (要約)

(単位:億円)

	2019年度		2018年度末
	上半期末	前年度末差	
資産の部合計	423,322	+2,115	421,207
うち現預金・コールローン	11,648	△2,127	13,775
うち有価証券	339,143	+5,106	334,036
うち貸付金	49,371	△826	50,198
うち有形固定資産	9,066	△54	9,120
うち無形固定資産	4,442	△229	4,671
負債の部合計	384,306	+2,963	381,342
うち保険契約準備金	356,434	+3,221	353,213
うち責任準備金	346,192	+2,795	343,397
うち社債	6,681	+790	5,890
うちその他負債	9,286	△837	10,123
うち価格変動準備金	8,295	+126	8,169
うち繰延税金負債	2,515	△299	2,814
純資産の部合計	39,015	△848	39,864
うち基金・基金償却積立金	9,800	+500	9,300
うち連結剰余金	3,971	△1,020	4,991
うちその他有価証券評価差額金	24,141	△280	24,422

※資産の部合計は、42兆3,322億円 (前年度末比0.5%増) となりました。主な資産構成は、有価証券33兆9,143億円 (同1.5%増)、貸付金が4兆9,371億円 (同1.6%減) です。

負債の部合計は、38兆4,306億円 (同0.8%増) となりました。負債の大部分を占める保険契約準備金は35兆6,434億円 (同0.9%増) となりました。

純資産の部合計は、3兆9,015億円 (同2.1%減) となりました。純資産の部のうち、基金・基金償却積立金は9,800億円 (同5.4%増)、その他有価証券評価差額金は2兆4,141億円 (同1.1%減) となりました。

### Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

#### 1. 保険料等収入・年換算保険料（個人保険・個人年金保険）

##### ■ 保険料等収入の状況

(単位: 億円)

	2019年度 上半期		前年同期比	2018年度 上半期
保険料等収入	13,008		△7.5%	14,057
うち個人保険・個人年金保険	8,200		△12.1%	9,324
うち営業職員チャンネル	6,754		△3.7%	7,011
うち平準払保険	6,163		+1.1%	6,093
うち一時払保険	590		△35.7%	918
うち銀行窓販チャンネル	1,254		△40.9%	2,122
うち団体保険	1,418		△7.8%	1,538
うち団体年金保険	3,211		+6.4%	3,018

##### ■ 新契約年換算保険料の状況（個人保険・個人年金保険）

(単位: 億円)

	2019年度 上半期		前年同期比	2018年度 上半期
新契約年換算保険料	502		△29.9%	717
うち営業職員チャンネル	436		△27.3%	600
うち銀行窓販チャンネル	55		△47.1%	105
うち第三分野 <sup>(注)</sup>	194		△31.9%	284

(注) 第三分野は、医療保障給付、生前給付保障給付、保険料払込免除給付等に該当する部分を計上

##### ■ 保有契約年換算保険料の状況（個人保険・個人年金保険）

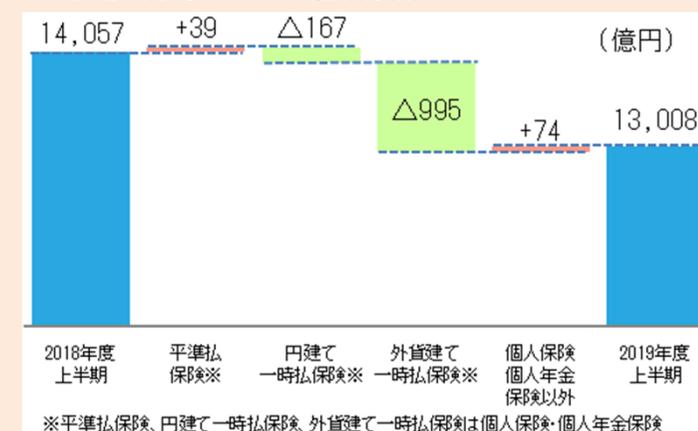
(単位: 億円)

	2019年度 上半期末		前年度末比	2018年度末
保有契約年換算保険料	22,457		△0.9%	22,656
うち営業職員チャンネル	16,390		△0.3%	16,441
うち銀行窓販チャンネル	5,606		△2.5%	5,752

○ 保険料等収入は、1兆3,008億円と前年同期比7.5%減収

- ・ 米国金利低下の影響等による外貨建て一時払保険の販売減少を主因として、前年同期比で減収
- ・ チャンネル別では、前年同期比で営業職員チャンネルが3.7%減少、銀行窓販チャンネルが40.9%減少
- ・ 営業職員チャンネルのうち、平準払保険は、2019年4月に発売した「ベストスタイル 健康キャッシュバック」の貢献等により、6,163億円と前年同期比1.1%の増加

##### ■ 保険料等収入の増減要因



### Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

## 2. 保有契約高（団体保険・団体年金保険）

#### ■ 保有契約高の状況（団体保険・団体年金保険）

（単位：億円）

	2019年度 上半期末		2018年度末
		前年度末比	
団体保険	1,162,421	+0.4%	1,158,156
団体年金保険	77,612	+0.9%	76,913
（国内グループ） <sup>（注）</sup>	90,264	+1.1%	89,241

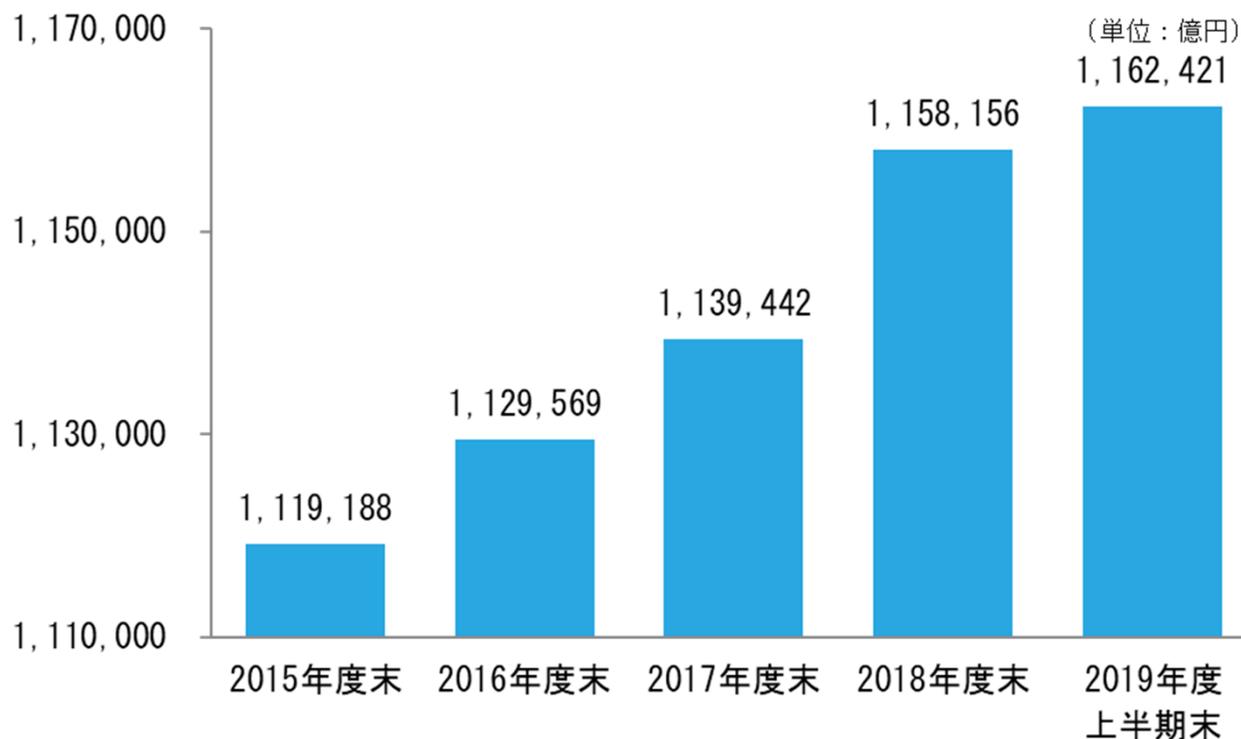
（注）国内グループは明治安田生命単体および明治安田アセットマネジメントの合計

○団体保険は、1兆1,624億2,421億円と前年度末比0.4%増加

・引き続き業界トップシェアを堅持

○団体年金保険は、7兆7,612億円と前年度末比0.9%増加

#### ■ 団体保険の保有契約高の推移



### Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

#### 3. 基礎利益

##### ■ 基礎利益等の状況

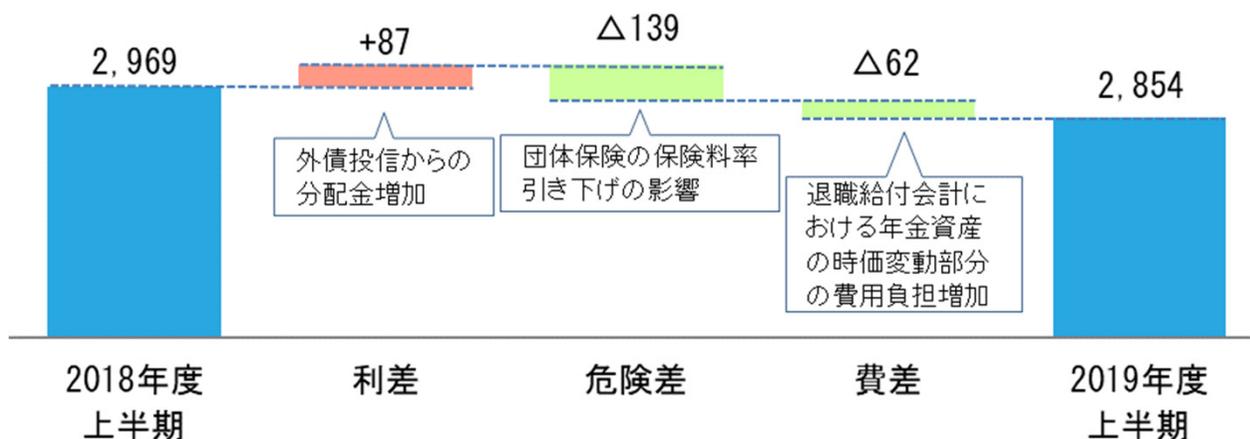
(単位: 億円)

	2019年度 上半期		2018年度 上半期
		前年同期差	
基礎利益 (A)	2,854	△114	2,969
利差	1,404	+87	1,317
危険差	1,330	△139	1,469
費差	119	△62	182
キャピタル損益 (B)	△1,130	△441	△689
臨時損益 (C) (注)	△274	△17	△257
経常利益 (A+B+C)	1,449	△573	2,022

(注) 臨時損益には、危険準備金繰入・戻入額および追加責任準備金繰入額等を含む

##### ■ 基礎利益の主な増減要因

(単位: 億円)



○基礎利益は、2,854億円と前年同期から114億円減益

・団体保険の保険料率引き下げの影響等により危険差益が139億円減少

##### ■ 基礎利益の推移



##### ■ 平均予定利率の推移



### Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

#### 4. 資産運用収支

##### ■ 資産運用収支の状況

(単位:億円)

	2019年度 上半期		2018年度 上半期
		前年同期差	
資産運用収支 (全社)	3,302	△522	3,824
資産運用収支 (一般勘定)	3,215	△406	3,622
資産運用収益	4,727	+18	4,708
利息及び配当金等収入	4,250	+187	4,062
有価証券売却益	122	+0	122
有価証券償還益	349	+18	330
為替差益	-	△190	190
資産運用費用	1,512	+425	1,086
有価証券売却損	10	△173	183
有価証券評価損	258	+243	15
金融派生商品費用	696	+44	651
為替差損	199	+199	-

○資産運用収支 (一般勘定) は、3,215 億円と前年同期差 406 億円減少

・株価下落や円高の進行に伴う有価証券評価損の拡大による資産運用費用の増加が主な要因

※為替差益・為替差損は、主に外貨建て保険契約に対応する資産に係る市場為替レート変動の影響額

○利息及び配当金等収入は、4,250 億円と前年同期差 187 億円増加

・運用手法多様化の一環として投資している外債投信からの分配金増加と外国公社債の積み増しによる利息の増加等がプラスに寄与

##### 【参考】2019年度上半期報告の運用環境

	2019年度 上半期末		2018年度 上半期末	2018年度末
		前年同期末差		
TOPIX	1,587.80	△229.45	1,817.25	1,591.64
日経平均株価 (円)	21,755.84	△2,364.20	24,120.04	21,205.81
10年国債利回り (%)	△0.215	△0.340	0.125	△0.095
米国10年国債利回り (%)	1.665	△1.397	3.061	2.405
円相場 (円/\$)	107.92	△5.65	113.57	110.99
円相場 (円/€)	118.02	△14.12	132.14	124.56

##### ■ 利息及び配当金等収入の推移



### Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

#### 5. 健全性指標・企業価値（EEV）

##### ■ ソルベンシー・マージン比率

（単位：％）

	2019年度上半期末	前年度末差	2018年度末
ソルベンシー・マージン比率	1,015.6	+32.3 <sup>ポイント</sup>	983.3

○ソルベンシー・マージン比率は、内部留保の積み増しや国内劣後債の発行等により、1,015.6％と前年度末から32.3ポイント増加

##### ■ 経済価値ベースのソルベンシー比率（ESR）

（注1）

（単位：％）

	2019年度上半期末	前年度末差	2018年度末
ESR	156	△3 <sup>ポイント</sup>	159

（注1）当社のリスク量全体（信頼水準99.5%）に対して十分な自己資本が確保できているかを示す経済価値ベースの指標（当社の内部モデルに基づく数値）。モデルについては継続的に高度化を実施しており、2019年度上半期末ESRの算出から、保険監督者国際機構（IAIS）が検討を進める国際資本基準（ICS）をふまえた終局金利および運用期待収益率を用いる手法に変更。2018年度末ESRについても同様の手法により再評価した値を表示。なお、従来の手法により算出した2018年度末ESRは130%

○オンバランス自己資本は、内部留保の積み増しや国内劣後債の発行等により、3兆344億円と前年度末から1,156億円増加

##### ■ オンバランス自己資本

（単位：億円）

	2019年度上半期末	前年度末差	2018年度末
オンバランス自己資本 <sup>（注2）</sup>	30,344	+1,156	29,188

（注2）資本性が比較的強いと考えられる部分に限定した内部留保と外部調達資本の合計額

##### ■ オンバランス自己資本の推移



##### ■ 実質純資産額

（単位：億円、％）

	2019年度上半期末	前年度末差	2018年度末
実質純資産額	102,812	+882	101,930
一般勘定資産に対する比率	26.7	+0.2 <sup>ポイント</sup>	26.5

○実質純資産額は、10兆2,812億円と引き続き高い財務健全性を維持

##### ■ 企業価値（EEV）

（単位：億円）

	2019年度上半期末	年度始差	2019年度始
企業価値（EEV） <sup>（注3）</sup>	55,921	+1,657	54,263

○企業価値（EEV）は、5兆5,921億円と当年度始から1,657億円増加

（注3）企業価値（EEV）＝保有契約価値＋修正純資産＝生命保険会社の成長性・収益性・健全性を総合的に示す指標。経済環境の前提、および貯蓄性商品の解約率などコントロールすることが困難な前提を2016年度末で固定していることから、Ⅱ.3に記載のヨーロッパ・エンベディッド・バリュー（EEV）とは数値が相違

### Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

#### 6. 含み損益、国内株式含み損益ゼロ水準

##### ■ 一般勘定資産全体の含み損益

(単位:億円)

	2019年度 上半期末		2018年度末
		前年度末差	
一般勘定資産全体の含み損益	64,959	+1,210	63,749
うち時価のある有価証券 (注1)	60,231	+1,324	58,907
うち公社債	31,063	+2,159	28,903
うち株式	22,005	△1,345	23,351
うち外国証券	6,381	+376	6,004
うち不動産	4,733	+21	4,711

(注1) 有価証券には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含む

##### ■ 国内株式含み損益ゼロ水準

仮に当社ポートフォリオがTOPIXにフル連動とした場合

	2019年度上半期末 (注2)	2018年度末
TOPIXベース	680ポイント程度	670ポイント程度

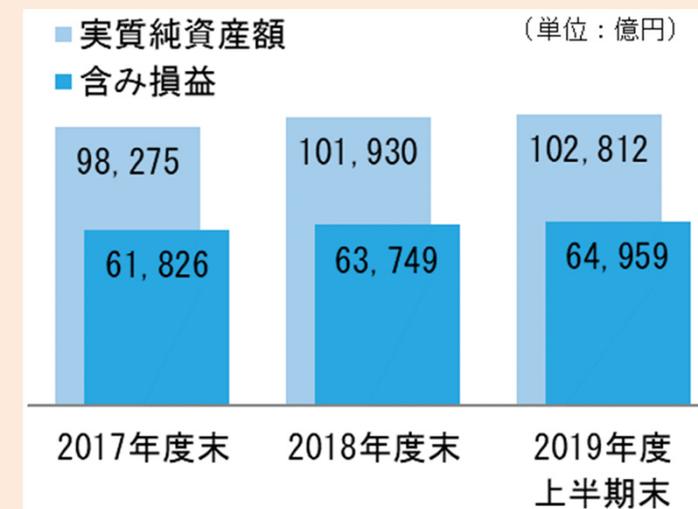
(注2) 日経平均株価ベースでは9,300円程度

○一般勘定資産全体の含み損益は6兆4,959億円と前年度末差1,210億円増加

・株価下落により株式の含み益が減少した一方、国内金利の低下により、公社債の含み益が増加

○株式の含み損益は、月中平均価格ベースで2兆2,005億円(前年度末差△1,345億円)

##### ■ 含み損益の推移



### Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

#### 7. 契約クオリティ(解約・失効・減額率、総合継続率)

##### ■ 解約・失効・減額率(注1)の状況(個人保険・個人年金保険)

(単位:%)

	2019年度 上半期		2018年度 上半期
		前年同期差	
解約・失効・減額率	1.99	+0.11ポイント	1.87

(注1) 年度始保有契約年換算保険料に対する解約・失効・減額年換算保険料の割合

##### ■ 総合継続率(注2)の状況(個人保険・個人年金保険)

(単位:%)

	2019年度 上半期		2018年度 上半期
		前年同期差	
13月目総合継続率	94.5	△0.4ポイント	94.9
25月目総合継続率	88.9	△0.7ポイント	89.6

(注2) 総合継続率は、契約高ベースにて算出

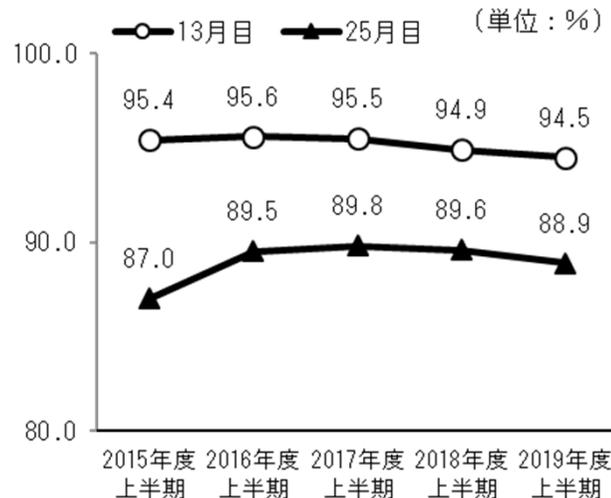
##### ■ 解約・失効・減額率の推移

(単位:%)



##### ■ 総合継続率の推移

(単位:%)



○契約クオリティを示す指標は、引き続き良好に推移

・解約・失効・減額率は、1.99%  
(前年同期差+0.11ポイント)

・総合継続率は、13月目・25月目  
ともに高水準を維持

### Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

## 8. 損益計算書・貸借対照表

#### ■ 損益計算書（要約）

（単位：億円）

	2019年度		2018年度 上半期
	上半期	前年同期比	
経常収益（A）	18,207	△6.2%	19,403
うち保険料等収入	13,008	△7.5%	14,057
うち資産運用収益	4,814	△2.0%	4,911
経常費用（B）	16,757	△3.6%	17,381
うち保険金等支払金※	11,160	+2.3%	10,907
うち責任準備金等繰入額	1,660	△42.9%	2,905
うち資産運用費用	1,512	+39.1%	1,086
うち事業費	1,774	△0.5%	1,783
経常利益（A-B）	1,449	△28.3%	2,022
特別損益	△145	-	△826
法人税等合計	105	+6.2%	99
中間純剰余	1,197	+9.2%	1,096

#### ※ 保険金等支払金の内訳

（単位：億円）

	2019年度		2018年度 上半期
	上半期	前年同期比	
保険金等支払金	11,160	+2.3%	10,907
うち保険金・給付金	5,327	+1.8%	5,232
うち年金	2,910	△1.9%	2,965
うち解約返戻金・その他返戻金	2,901	+8.0%	2,686

#### ■ 貸借対照表（要約）

（単位：億円）

	2019年度		2018年度末
	上半期末	前年度末差	
資産の部合計	393,851	+1,243	392,608
うち現預金・コールローン	11,072	△1,304	12,377
うち有価証券	324,773	+2,951	321,821
うち貸付金	41,629	△608	42,238
うち有形固定資産	8,663	△39	8,703
うち無形固定資産	875	△9	884
負債の部合計	354,782	+2,489	352,293
うち保険契約準備金	328,501	+2,280	326,221
うち責任準備金	324,147	+1,659	322,487
うち社債	6,407	+800	5,607
うちその他負債	8,588	△293	8,881
うち価格変動準備金	8,285	+125	8,159
うち繰延税金負債	1,996	△396	2,392
純資産の部合計	39,069	△1,245	40,315
うち基金・基金償却積立金	9,800	+500	9,300
うち剰余金	3,810	△1,106	4,916
うちその他有価証券評価差額金	23,805	△696	24,502

※資産の部合計は、39兆3,851億円（前年度末比0.3%増）となりました。主な資産構成は、有価証券32兆4,773億円（同0.9%増）、貸付金が4兆1,629億円（同1.4%減）です。

負債の部合計は、35兆4,782億円（同0.7%増）となりました。負債の大部分を占める保険契約準備金は32兆8,501億円（同0.7%増）となりました。

純資産の部合計は、3兆9,069億円（同3.1%減）となりました。純資産の部のうち、基金・基金償却積立金は9,800億円（同5.4%増）、その他有価証券評価差額金は2兆3,805億円（同2.8%減）となりました。

## IV. スタンコープ社の業績【参考】

### 1. スタンコープ社の保険料等収入、基礎利益相当額、当期純利益

#### ■ 保険料等収入、基礎利益相当額、当期純利益の状況 (注1)

(単位:億円)

	2019年度 上半期		2018年度 上半期
		前年同期比	
保険料等収入	1,451	+2.3%	1,418
基礎利益相当額 (注2)	244	+34.7%	181
当期純利益 (注3)	155	+55.1%	100

(注1) スタンコープ社は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、上半期グループ業績への反映期間は1月から6月までの6ヵ月分

(注2) 基礎利益相当額は、税引前利益からキャピタル損益や買収会計に伴う無形資産償却費用等を控除したもの  
※財務会計の管理方法変更に伴い、2019年度より買収会計適用後の会計ベースでの算出に変更  
なお、変更後基準で算出した場合の2018年度上半期実績は193億円

(注3) 買収会計適用後

※2018年度上半期は2018年6月末の為替レート(1米ドル=110.54円)、2019年度上半期は2019年6月末の為替レート(1米ドル=107.79円)で円換算

○保険料等収入は、主力の団体保険事業が順調に推移し、1,451億円と前年同期比2.3%の増収

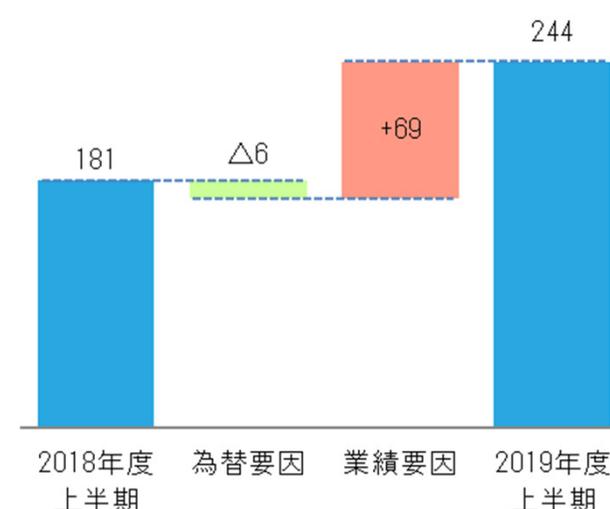
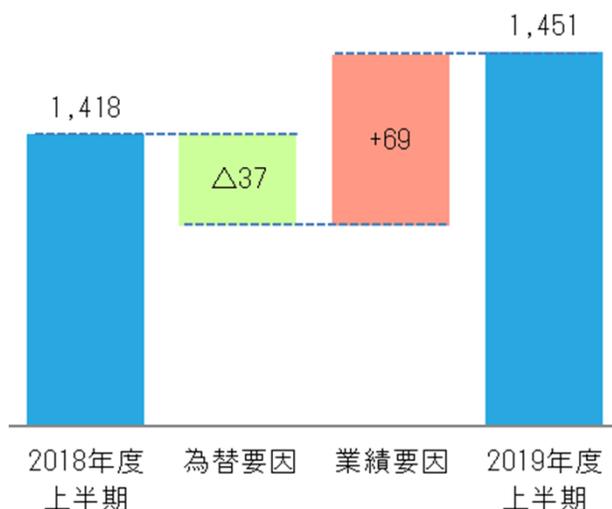
○団体保険事業の給付率の低下による利益改善を主因として、基礎利益相当額は244億円(前年同期比+34.7%)、当期純利益は155億円(前年同期比+55.1%)と、ともに大幅に増益

#### ■ 保険料等収入の増減要因

(単位:億円)

#### ■ 基礎利益相当額の増減要因

(単位:億円)



## IV. スタンコープ社の業績【参考】

### 2. 損益計算書・貸借対照表（スタンコープ社）

#### ■ 損益計算書（要約）（注1）

（単位：億円）

	2019年度 上半期 (注2)		2018年度 上半期 (注3)
		前年同期比	
経常収益 (A)	1,968	+5.1%	1,873
うち保険料等収入	1,451	+2.3%	1,418
うち資産運用収益	418	+11.9%	374
経常費用 (B)	1,777	+1.5%	1,750
うち保険金等支払金	1,050	△0.2%	1,052
うち責任準備金等繰入額	0	△93.9%	8
うち資産運用費用	183	+27.2%	144
うち事業費	448	+0.8%	444
経常利益 (A - B)	191	+56.6%	122
特別損益	△0	—	0
法人税等合計	36	+62.0%	22
中間純利益	155	+55.1%	100

#### ■ 貸借対照表（要約）（注1）

（単位：億円）

	2019年度 上半期末 (注2)		2018年度末 (注4)
		前年度末差	
資産の部合計	34,889	+1,414	33,474
うち現預金・コールローン	392	+38	353
うち有価証券	20,298	+1,838	18,459
うち貸付金	7,488	△215	7,704
うち有形固定資産	287	△9	296
うち無形固定資産	3,817	△183	4,001
負債の部合計	28,660	+1,130	27,530
うち保険契約準備金	27,221	+939	26,282
うち責任準備金	21,397	+1,132	20,265
うち社債	274	△9	283
うちその他負債	650	+141	509
うち繰延税金負債	438	+68	369
純資産の部合計	6,229	+284	5,944
うち資本剰余金	5,335	△158	5,494
うち利益剰余金	638	+70	567
うちその他有価証券評価差額金	253	+372	△118

（注1）米国の会計基準で作成した財務諸表を、日本の会計基準に準じて組み替え。なお、スタンコープ社は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、損益計算書は1月から6月の実績

（注2）2019年6月末の為替レート(1米ドル=107.79円)で円換算

（注3）2018年6月末の為替レート(1米ドル=110.54円)で円換算

（注4）2018年12月末の為替レート(1米ドル=111.00円)で円換算

## V. 業績見通し

### 2019年度業績見通し

#### ■ グループ保険料の見通し

	2019年度 上半期報告時		前回見通しから の修正額	2018年度 実績
		前年度比		
グループ保険料 (注1) (注3)	30,800億円程度	横ばい	△1,500億円	30,813億円
うち明治安田生命単体	27,700億円程度	横ばい	△1,500億円	27,708億円
うちスタンコープ社	2,900億円程度	増加	修正なし	2,867億円

#### ■ グループ基礎利益の見通し

	2019年度 上半期報告時		前回見通しから の修正額	2018年度 実績
		前年度比		
グループ基礎利益 (注2) (注3)	6,300億円程度	横ばい	+450億円	6,338億円
うち明治安田生命単体	5,900億円程度	横ばい	+400億円	5,896億円
うちスタンコープ社	470億円程度	増加	+50億円	425億円

※業績見通しは、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります

(注1) グループ保険料は連結損益計算書上の保険料等収入

(注2) グループ基礎利益は、明治安田生命の基礎利益に連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち明治安田生命の持分相当額を合算し、明治安田生命グループ内の内部取引の一部を相殺した数値※

※スタンコープ社について、財務会計の管理方法変更に伴い、2019年度より基礎利益相当額を買収会計適用後の会計ベースでの算出に変更。なお、変更後基準で算出した場合の2018年度実績は455億円(グループ基礎利益合計は6,368億円)

(注3) 業績見通しにおける想定為替レート：対米ドル107円

#### ■ 企業価値 (EEV) の見通し

	2019年度末	2019年度始
企業価値 (EEV)	年平均6%程度増加	54,263億円

○グループ・単体ともに保険料等収入・基礎利益が「横ばい」となる見通し

- ・ 保険料等収入は、米国金利低下の影響等による外貨建て一時払保険の販売減少を主因に、グループ・単体ともに「増収」から「横ばい」へ修正

- ・ 基礎利益は、外債投信からの分配金増加やスタンコープ社の業績好調等により、グループ・単体ともに「減益」から「横ばい」へ修正

○企業価値 (EEV) は、6%程度増加の見通し

## 1. 「アフターフォロー」

○お客さまに確かな安心をお届けするために。明治安田生命は「対面のアフターフォロー」で保険を変えます

### 1. お手続きサポート

- ・保険金・給付金のご請求をはじめ、ご契約にかかわる各種お手続きのサポートに加え、ご高齢のお客さまなどには「MY長寿ご契約点検制度」「MY安心ファミリー登録制度」「MYアシスト+」制度といったさらなるサポートを実施

### 2. 定期点検

- ・毎年、お客さまにご契約内容を説明し、「最適・最新」な保障となっているか、ご請求にモレはないか、などを確認

### 3. 健活サポート

- ・病気の予防・早期発見などに役立つ「みんなの健活サービス」や、健康増進につながるイベントのご案内等、さまざまなメニューを提供

アフターフォローがさらに充実！ご契約時やご加入後のお手続きがもっと簡単・便利に

対面サービスの強化！タブレット型次世代営業端末「マイスタープラス」を導入

#### 定期点検の電子化

情報提供の充実とともに、お手続き漏れを防ぎ、スムーズなお手続きが可能

#### 給付金請求の電子化

電子画面で簡単にわかりやすくお手続きができ、お支払いまでの時間も短縮

#### 一括手続きの拡大

一回の電子サインでご請求いただけるお手続きの範囲が拡大し、より簡単・便利に



大手生保初！全営業職員に社用スマートフォン「MYフォン」・「LINE WORKS」を導入

#### LINE WORKSの導入

コミュニケーションツールの多様化に対応し、お客さまの利便性が向上

#### 高性能カメラの活用

健康診断の結果や病院の領収証等をMYフォンで撮影することで、紙でのご提出が不要となり、安心してスピーディーなお手続きが可能



お支払いが便利に！カード用「決済端末」を導入

#### キャッシュレス化

決済端末を用いた「デビットカード払い」、「クレジットカード払い」の開始により、キャッシュレスとなるお手続きの範囲が拡大し、より安心・便利に

#### ペーパーレス化

生命保険料口座振替のお申込みにおいて、金融機関届出印の押印や書類の記入・ご提出が不要に



# VI. トピックス

## 2. 「みんなの健活プロジェクト」

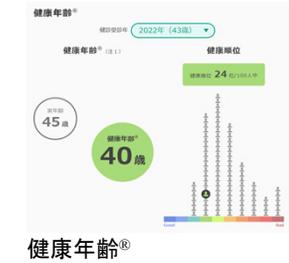
- 4月から「お客さま」「地域社会」「働く仲間」の継続的な健康増進を応援する「みんなの健活プロジェクト」を本格展開しています
- 健康増進の取り組み方は「人それぞれ」、取り組みは「一人では難しい」、取り組みを「続けることは難しい」。だから私たちは、さまざまな取り組みでみなさまの健活を応援します

健康を「知る」

### ◆「MY健活レポート」（「ベストスタイル 健康キャッシュバック」ご加入者さま専用サービス）※1

- ・ お客さまの健康診断結果データをもとに約100万人の医療ビッグデータを活用し、将来の入院する可能性や総合的な健康状態を年齢で表す「健康年齢®」※2等を統計的に算出※3

- ※1 2019年11月よりスタート
- ※2 「健康年齢®」は株式会社JMDCの登録商標です
- ※3 お客さまの個別の健康状態に対して、医師の医学的判断に基づく疾病の診断をするものではありません



健康を「つくる」

### ◆全国各地で健康増進イベントを開催

- ・ 全国各地で「Jリーグウォーキング」、「フットサルフェスタ」、「ゴルフーナメント」、「みんなの健活ヨガ」など、みなさまの健康をサポートする健康増進イベントを開催

明治安田生命Jリーグウォーキング in OSAKAの様子



健康を「続ける」

### ◆健康増進の取り組みを応援する新商品「ベストスタイル 健康キャッシュバック」を発売 ※1

- ・ 本商品では、健康増進の取り組みを応援するため、健康診断の結果をご提出いただいたお客さまへ、健康状態に応じて3つのキャッシュバックランクを判定し、毎年最大で保険料1ヵ月分相当をキャッシュバックします。※2さらに、2019年4月の保険料率改定により、従前の「ベストスタイル」よりも、より少ない保険料のご負担でご加入いただけます。※3

- ※1 「ベストスタイル 健康キャッシュバック」は「ベストスタイル」に「健康サポート・キャッシュバック特約」を付加した場合の販売名称です
- ※2 毎年ご提出いただく当社の定める基準を満たす被保険者の健康診断結果を項目ごとにポイント化し、その合計ポイントに応じて3つのキャッシュバックランクを判定します。キャッシュバックランクおよび基準支払金額に応じて「健康サポート・キャッシュバック」を翌保険年度の年単位の契約当日にお支払い（自動積立）します
- ※3 保険料はご契約年齢・性別や設計内容によって引き下げとされない場合があります

### 3. 「Jリーグ・地域社会貢献」

○「明治安田生命Jリーグ」をはじめ、さまざまな地域社会の活性化に貢献していきます

◆Jリーグ・地方自治体等と連携し、地域社会に貢献

- ・ Jリーグタイトルパートナーである当社では、全国の支社等が地元のJリーグ55クラブ等と個別にスポンサー契約を結び、当社従業員、家族、お客さまが一体となって応援
- ・ 地方創生に関する連携協定締結にも注力しており、9月末までに31自治体（うち都道府県30、市町村1）4銀行1大学と締結



山梨県との「包括連携協定」に基づく特産品のPRを目的とした物産展の開催

◆小学生向けサッカー教室等を全国で開催

- ・ 地元のJクラブ等のみなさまの全面協力を得て、2019シーズンは、小学生を対象にしたサッカー教室を9月末までに全国で68回開催し、約3,700人のお子さまや保護者の方々が参加



小学生向けサッカー教室の様子  
(神奈川マーケット開発部)

◆地域に根ざした取組みを実施

- ・ あしながチャリティー&ウォーク  
従業員が参加するウォーキングとチャリティー募金を通じ、親をなくした子どもたちに進学と心のケア支援を実施
- ・ 「黄色いワッペン」贈呈事業  
新入学児童を対象に、交通安全キャンペーンの一環として「黄色いワッペン」の贈呈事業に参画
- ・ 「地域を見守る」活動  
全国のMYライフプランアドバイザーが、日々のお客さま訪問活動を通じて地域の見守りを実施



あしながチャリティー&ウォークの様子（岩手）